

人口ビジョン時点修正（案）

(1) 位置付けと対象期間

ア 位置付け

国は、少子高齢化・人口減少に対応し、将来にわたって活力ある社会を維持していくため、平成26年（2014年）11月に「まち・ひと・しごと創生法」を制定し、同年12月に人口の現状と将来の人口目標等の展望を示した「まち・ひと・しごと創生長期ビジョン」（以下「長期ビジョン」という。）を策定しました。また、令和元年（2019年）12月には、策定から約5年が経過したことから長期ビジョンを改訂しました。

呉市においても、令和3年（2021年）3月に「呉市人口ビジョン」を策定していますが、直近の動向を踏まえて内容の見直しを行います。

イ 対象期間

国の長期ビジョンの趣旨等を踏まえ、令和32年（2050年）までとします。

(2) 人口動向等の現状分析

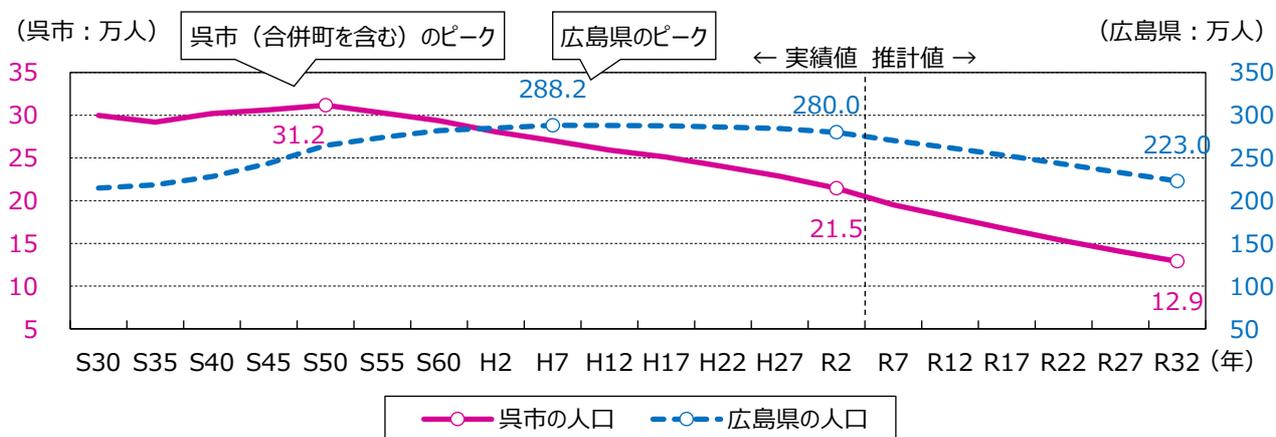
ア 人口推移

呉市（旧合併町を含む。）の総人口は、昭和50年（1975年）の約31.2万人をピークに減少へ転じており、人口のピークは国の平成20年（2008年）や広島県の平成7年（1995年）と比べて、早い時期に人口減少への転換期を迎えています。

令和2年（2020年）には約21.5万人となっていますが、国立社会保障・人口問題研究所（以下「社人研」という。）の「日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）」によると、今後も減少傾向は続き、令和32年（2050年）には、約12.9万人まで減少すると見込まれています。

また、人口減少が続いた結果として、令和7年（2025年）3月末には20万人を下回っています。

図1-1 広島県人口及び呉市人口の推移と見通し



(注) 令和2年（2020年）以前は、総務省『国勢調査』（各年10月1日）、令和7年（2025年）以降は、社人研『日本の地域別将来推計人口（令和5（2023）年推計）』

イ 年齢3区分別人口の推移

生産年齢人口（15～64歳）は、昭和45年（1970年）の約21万人をピークに減少に転じ、令和2年（2020年）には、約11.5万人まで減少しています。

また、平成2年（1990年）に高齢人口（65歳以上）が年少人口（14歳以下）を上回って以降、その傾向は続き、高齢人口は、令和2年（2020年）時点で約7.6万人となり、社人研の推計によると、令和2年（2020年）以降は減少に転じることが見込まれていますが、高齢化率は令和2年（2020年）時点で35.5%となっており、その後も上昇すると見込まれています。

図 1-2 年齢3区分別人口推計と将来推計

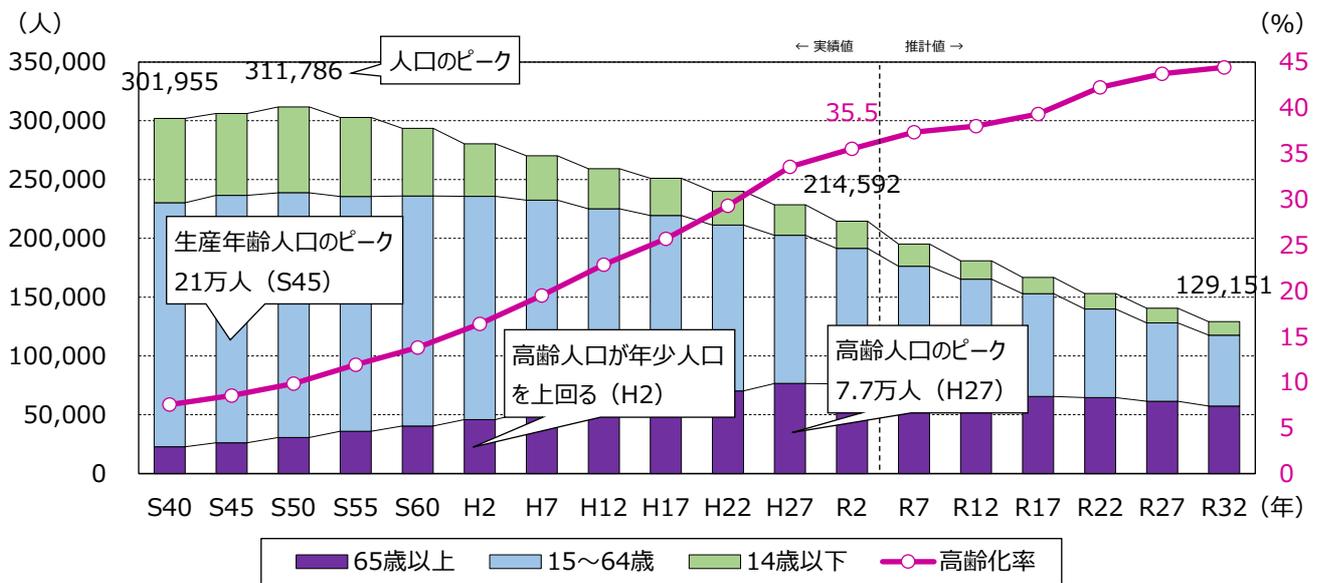


表 1-1 年齢3区分別人口推計と将来推計

(単位：人、%)

区分	S40 (1965)	S45 (1970)	S50 (1975)	S55 (1980)	S60 (1985)	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)	R27 (2045)	R32 (2050)
年少人口 (0～14歳)	71,668 23.7	69,718 22.8	72,956 23.4	67,168 22.2	57,538 19.6	44,638 15.9	37,684 13.9	34,066 13.1	31,559 12.6	28,670 11.9	25,977 11.4	23,054 10.7	18,881 9.7	15,638 8.6	13,846 8.3	13,186 8.6	12,475 8.9	11,468 8.9
生産年齢人口 (15～64歳)	207,492 68.7	210,382 68.7	208,155 66.8	199,603 65.9	195,598 66.6	189,897 67.7	179,892 66.6	165,957 64.0	155,003 61.8	141,008 58.8	125,921 55.1	115,331 53.7	103,461 53.0	96,563 53.4	87,342 52.4	75,255 49.2	66,629 47.4	60,324 46.7
高齢人口 (65歳以上)	22,795 7.5	26,122 8.5	30,674 9.8	35,996 11.9	40,448 13.8	45,894 16.4	52,603 19.5	59,201 22.8	64,440 25.7	70,271 29.3	76,635 33.5	76,207 35.5	72,852 37.3	68,730 38.0	65,560 39.3	64,623 42.2	61,429 43.7	57,359 44.4
合計	301,955	306,222	311,786	302,766	293,584	280,429	270,179	259,224	251,003	239,973	228,552	214,592	195,194	180,931	166,748	153,064	140,533	129,151

(注) 令和2年(2020年)以前は、総務省『国勢調査』(各年10月1日)、令和7年(2025年)以降は、社人研『日本の地域別将来推計人口(令和5(2023)年推計)』

(注) 令和2年(2020年)以前は、総人口と各年齢区分の合計を一致させるため、年齢不詳者を各年齢区分により按分し集計

(注) 年齢三区分別の構成比(下段)は小数点第二位で四捨五入しているため、合計が100.0にならない場合がある(以下構成比については同様)。

ウ 自然動態の推移

昭和60年（1985年）以降の自然動態を見ると、減少傾向が続く出生数に対して、高齢化を背景とした死亡数の増加は続き、平成2年（1990年）には、死亡数が出生数を上回る「自然減」の時代に入り、その後自然減で推移するとともに、減少数は拡大傾向にあります。

なお、平成14年（2002年）以降、出生数は1,000人台で増減を繰り返していましたが、令和5年（2023年）の出生数は867人まで減少し、1,000人を下回りました。

図 1-3 自然動態と出生・死亡者の推移

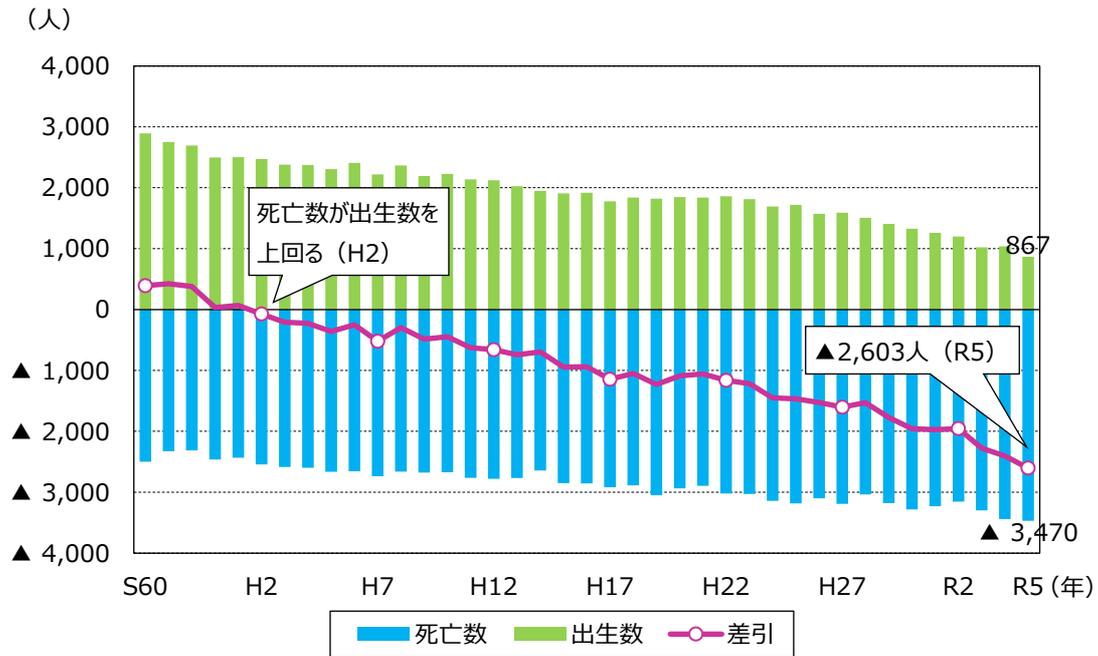


表 1-2 自然動態と出生・死亡者の推移

(単位：人)

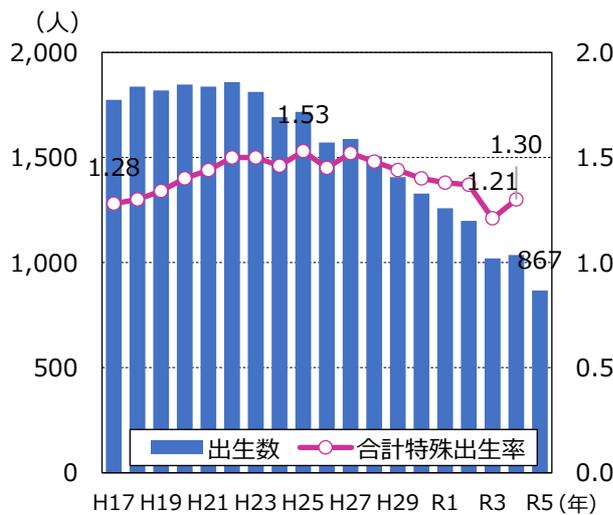
	S60 (1985)	H2 (1990)	H7 (1995)	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R5 (2023)
出生数	2,891	2,469	2,218	2,120	1,774	1,858	1,588	1,198	867
死亡数	2,500	2,544	2,739	2,780	2,919	3,021	3,192	3,154	3,470
差引	391	▲75	▲521	▲660	▲1,145	▲1,163	▲1,604	▲1,956	▲2,603

資料：厚生労働省『人口動態調査』

また、呉市の合計特殊出生率は、近年、若干の変化はあるものの、ほぼ横ばいで推移し、令和4年（2022年）は1.30となっていますが、出生数は、減少傾向が続いており、令和5年（2023年）は、867人と近年最も少なくなっています。

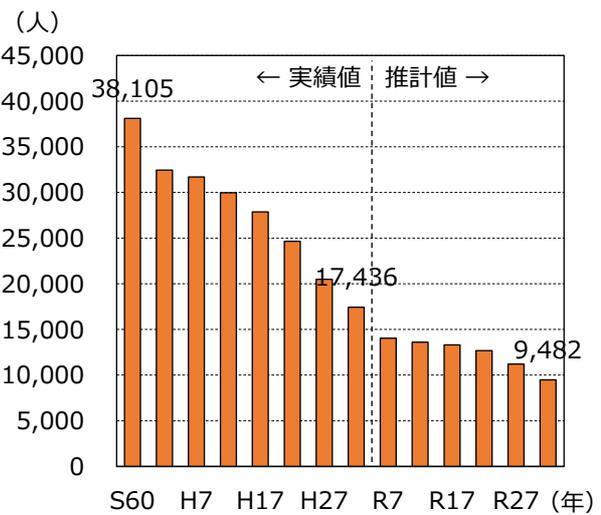
これは、「20～39歳」の女性人口（以下「若年女性人口」という。）の減少が影響していることに加えて、令和2年国勢調査によると、呉市における若年層（20～39歳）の未婚率は54.6%と、2人に1人は未婚であり、生涯未婚率も男性27.8%、女性17.5%と晩婚化、未婚化が進行していることも出生数減少の要因と考えられます。

図 1-4 合計特殊出生率と出生数の推移



資料：厚生労働省『人口動態調査』『呉市人口動態統計』

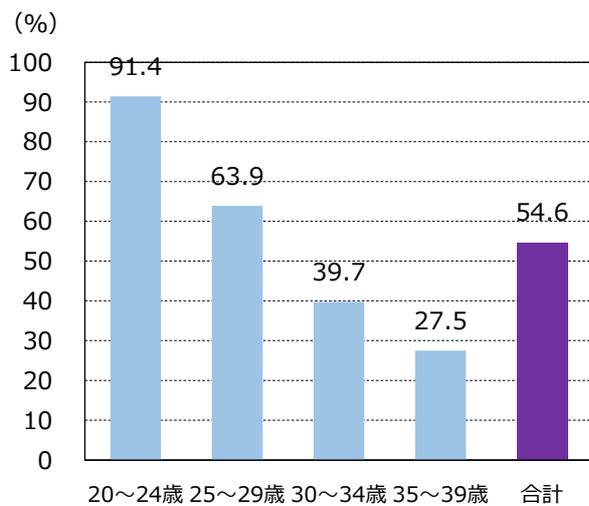
図 1-5 若年女性人口の推移と推計



(注) S60～R2 までは、総務省『国勢調査』（各年 10 月 1 日）、R7 年以降は、社人研『日本の地域別将来推計人口（令和 5（2023）年推計）』

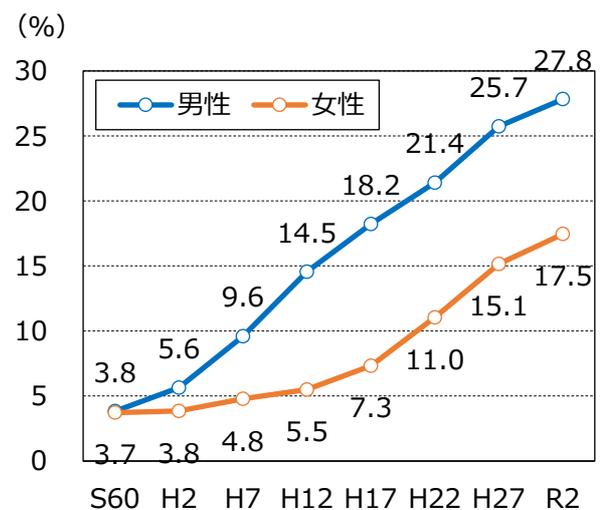
(注) H17 以前の人口は、合併町についても呉市に合算

図 1-6 年齢別未婚率（20～39 歳）



(注) 総務省『国勢調査』を基に算出。合計は 20～39 歳の未婚率

図 1-7 生涯未婚率の推移



(注) 総務省『国勢調査』を基に算出。45～49 歳と 50～54 歳未婚率の平均であり、50 歳時の未婚率

(注) H17 以前の人口は、合併町についても呉市に合算

エ 社会動態の推移

平成12年（2000年）以降の社会動態を見ると、転入数、転出数ともに減少傾向にある中で、常に転出数が転入数を上回っており、令和5年（2023年）は1,744人の「社会減」となっています。

転出超過となっている都市を見ると、広島市，東広島市，東京都特別区で全体の約46%を占めています。

図 1-8 社会動態と転入・転出者の推移

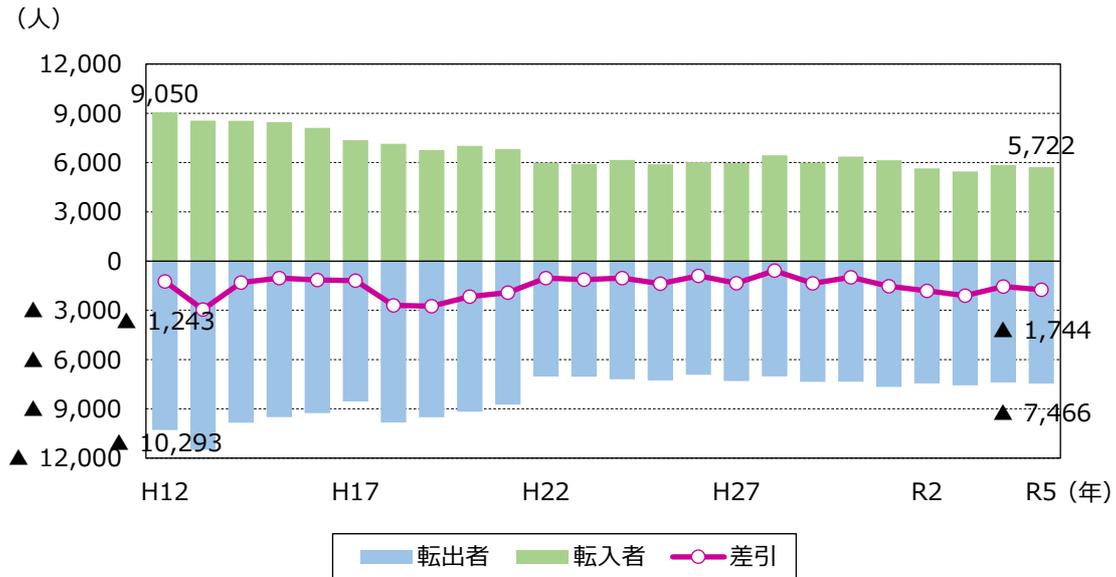


表 1-3 社会動態と転入・転出者の推移

(単位：人)

	H12 (2000)	H17 (2005)	H22 (2010)	H27 (2015)	R2 (2020)	R3 (2021)	R4 (2022)	R5 (2023)
転入者	9,050	7,367	5,996	5,960	5,638	5,457	5,844	5,722
転出者	10,293	8,556	7,031	7,305	7,457	7,565	7,398	7,466
差引	▲1,243	▲1,189	▲1,035	▲1,345	▲1,819	▲2,108	▲1,554	▲1,744

資料：総務省『住民基本台帳人口移動報告』

表 1-4 転入超過先と転出超過先（上位3地区）

(単位：人)

転入超過先		転出超過先	
江田島市	249	広島市	▲483
舞鶴市	56	東広島市	▲182
山口市	12	東京都特別区部	▲134

資料：総務省『住民基本台帳人口移動報告』（令和5年1～12月）

年齢別の転出入の超過状況を見ると、20歳から29歳までの転出超過が顕著であり、また、10歳未満も転出超過となっていることから、子育て世代の転出も要因になっているものと推測されます。

転出超過が多い広島市、東広島市、東京都特別区は、男女ともに20～29歳の転出が多くなっています。

図 1-9 年齢別転出入人口移動

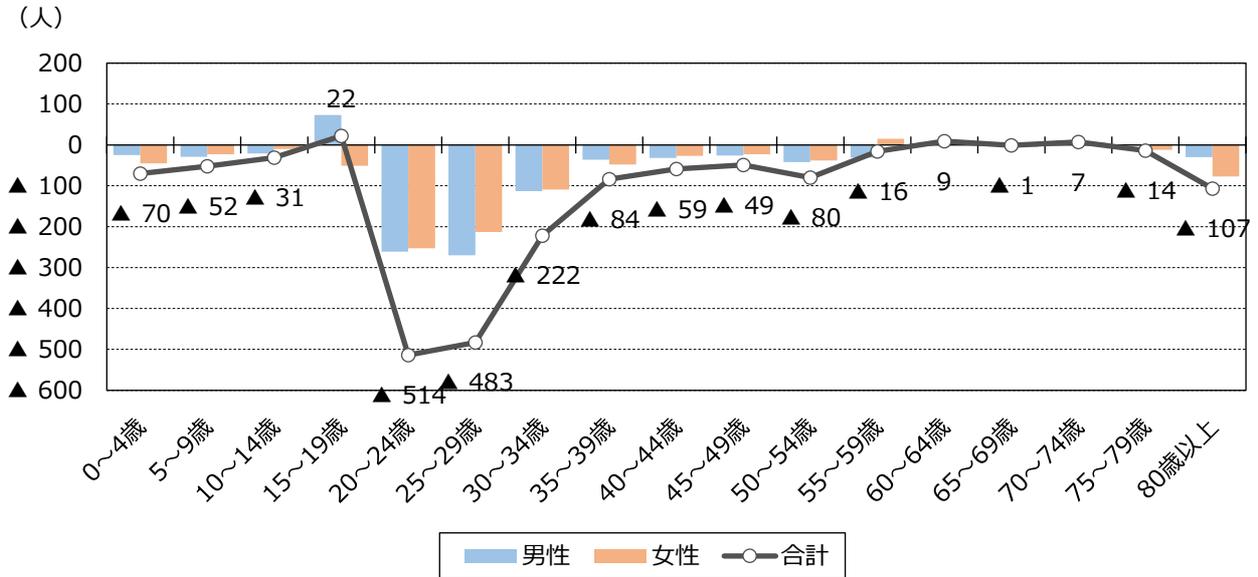


表 1-5 年齢別転出超過上位3地区

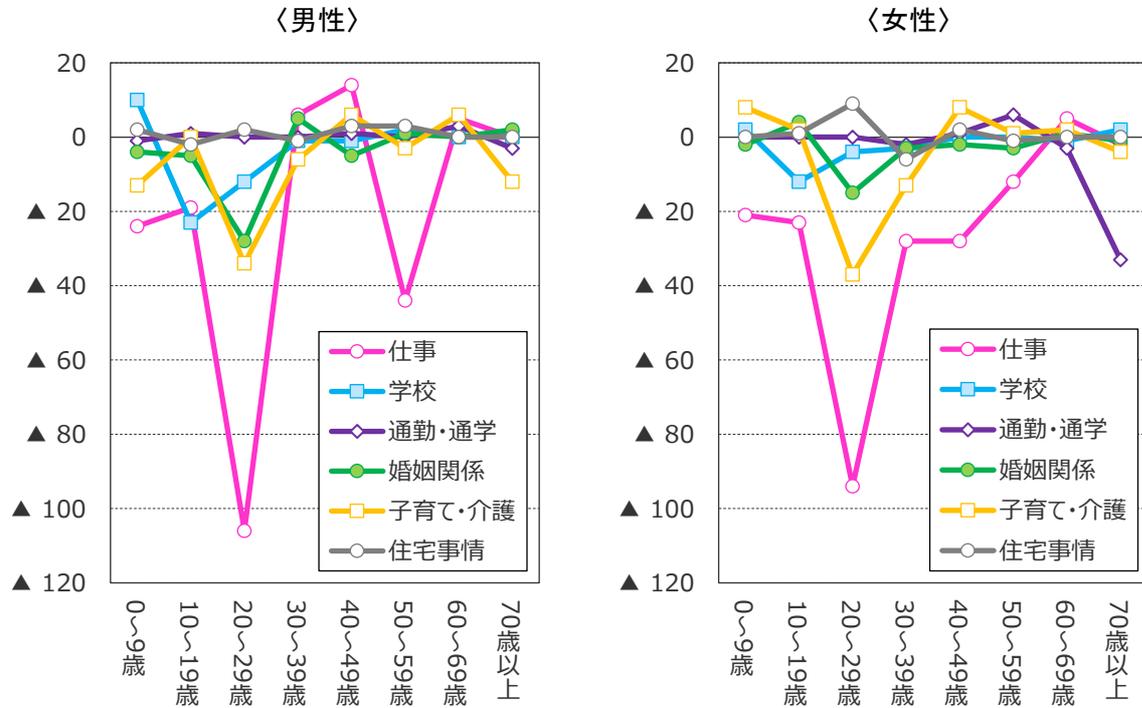
(単位：人)

	広島市			東広島市			東京都特別区		
	合計	男性	女性	合計	男性	女性	合計	男性	女性
総数	▲ 483	▲ 174	▲ 309	▲ 182	▲ 116	▲ 66	▲ 134	▲ 74	▲ 60
0～9歳	▲ 9	0	▲ 9	▲ 39	▲ 23	▲ 16	5	4	1
10～19歳	▲ 39	▲ 5	▲ 34	8	0	8	▲ 6	▲ 2	▲ 4
20～29歳	▲ 284	▲ 133	▲ 151	▲ 71	▲ 50	▲ 21	▲ 112	▲ 58	▲ 54
30～39歳	▲ 61	▲ 16	▲ 45	▲ 60	▲ 25	▲ 35	▲ 14	▲ 8	▲ 6
40～49歳	▲ 37	▲ 18	▲ 19	▲ 4	▲ 7	3	▲ 7	▲ 11	4
50～59歳	▲ 8	1	▲ 9	▲ 8	▲ 8	0	4	1	3
60歳以上	▲ 45	▲ 3	▲ 42	▲ 8	▲ 3	▲ 5	▲ 4	0	▲ 4

資料：総務省『住民基本台帳人口移動報告』（令和5年1～12月）

性別・年齢別・理由別に令和5年度（2023年度）の転出超過状況を見ると、20歳から39歳までの男女で「仕事」を理由とする転出が顕著となっています。また、「子育て・介護」を理由とする転出超過も多くなっています。

図1-10 性別・年齢別・理由別転出超過状況（令和5年（2023年））



※その他と回答した件数（未回答含む。）は未反映

表1-6 性別・年齢別・理由別転出超過状況（令和5年度（2023年度））

（単位：人）

	男性							女性						
	仕事	学校	通勤・通学	婚姻関係	子育て・介護	住宅事情	その他	仕事	学校	通勤・通学	婚姻関係	子育て・介護	住宅事情	その他
総数	▲ 170	▲ 25	▲ 1	▲ 33	▲ 65	▲ 7	▲ 787	▲ 205	▲ 15	▲ 36	▲ 21	▲ 36	▲ 5	▲ 761
0～9歳	▲ 24	▲ 10	▲ 1	▲ 4	▲ 13	▲ 2	▲ 57	▲ 21	▲ 2	▲ 0	▲ 2	▲ 8	▲ 0	▲ 74
10～19歳	▲ 19	▲ 23	▲ 1	▲ 5	▲ 0	▲ 2	▲ 60	▲ 23	▲ 12	▲ 0	▲ 4	▲ 2	▲ 1	▲ 37
20～29歳	▲ 106	▲ 12	▲ 0	▲ 28	▲ 34	▲ 2	▲ 459	▲ 94	▲ 4	▲ 0	▲ 15	▲ 37	▲ 9	▲ 367
30～39歳	▲ 6	▲ 1	▲ 0	▲ 5	▲ 6	▲ 1	▲ 175	▲ 28	▲ 3	▲ 2	▲ 3	▲ 13	▲ 6	▲ 87
40～49歳	▲ 14	▲ 1	▲ 1	▲ 5	▲ 6	▲ 3	▲ 77	▲ 28	▲ 0	▲ 1	▲ 2	▲ 8	▲ 2	▲ 43
50～59歳	▲ 44	▲ 2	▲ 0	▲ 1	▲ 3	▲ 3	▲ 50	▲ 12	▲ 0	▲ 6	▲ 3	▲ 1	▲ 1	▲ 29
60～69歳	▲ 5	▲ 0	▲ 3	▲ 0	▲ 6	▲ 0	▲ 9	▲ 5	▲ 1	▲ 3	▲ 1	▲ 2	▲ 0	▲ 18
70歳以上	▲ 0	▲ 0	▲ 3	▲ 2	▲ 12	▲ 0	▲ 24	▲ 2	▲ 2	▲ 33	▲ 1	▲ 4	▲ 0	▲ 85

（注）令和5年度広島県『人口移動アンケート調査（呉市分）』を呉市において集計

（注）その他には未回答を含む

(3) 産業構造の分析

ア 産業別人口の状況

呉市における産業大分類別就業者数は、多い順に「製造業」21,120人、「医療、福祉」15,209人、「卸売業、小売業」13,201人となっています。

男性では、「製造業」15,467人、「公務（他に分類されるものを除く）」8,158人、「卸売業、小売業」5,519人の順になっています。

女性では、「医療、福祉」11,929人、「卸売業、小売業」7,682人、「製造業」5,653人の順になっています。

図 1-11 男女別産業大分類別就業者数

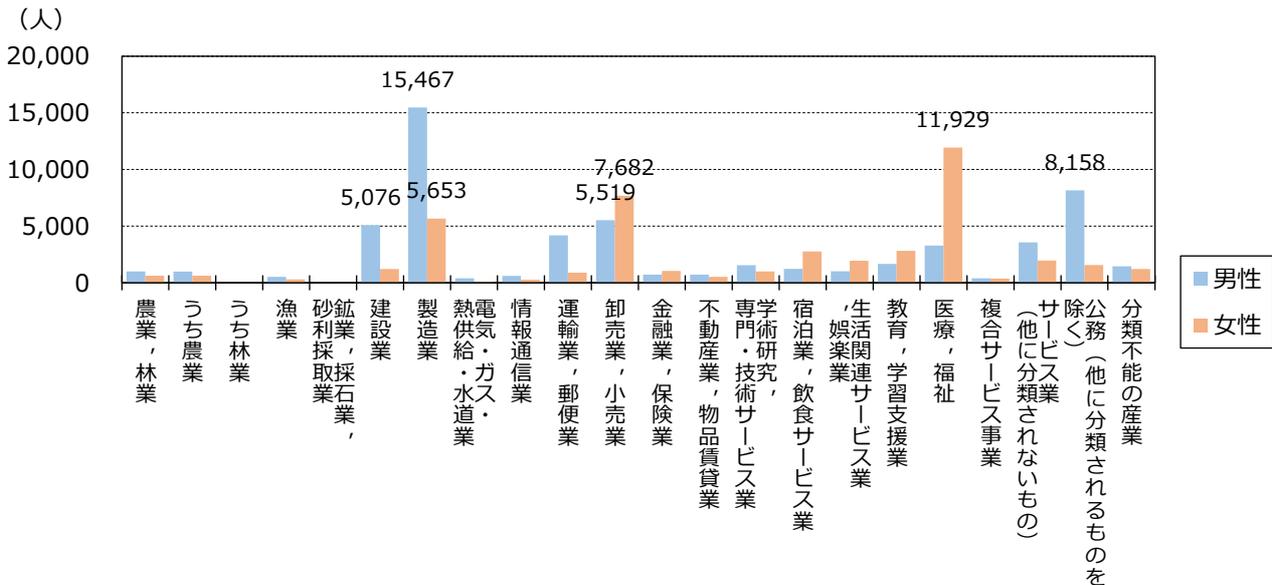


表 1-7 男女別産業大分類別就業者数

(単位: 人)

	総数	農業、林業	うち農業	うち林業	漁業	鉱業、採石業、砂利採取業
総数(男女計)	100,089	1,606	1,592	14	810	22
就業者数(男)	56,423	994	981	13	519	18
就業者数(女)	43,666	612	611	1	291	4
	建設業	製造業	電気・ガス・熱供給・水道業	情報通信業	運輸業、郵便業	卸売業、小売業
総数(男女計)	6,280	21,120	453	849	5,056	13,201
就業者数(男)	5,076	15,467	387	593	4,183	5,519
就業者数(女)	1,204	5,653	66	256	873	7,682
	金融業、保険業	不動産業、物品賃貸業	学術研究、専門・技術サービス業	宿泊業、飲食サービス業	生活関連サービス業、娯楽業	教育、学習支援業
総数(男女計)	1,740	1,221	2,526	3,977	2,943	4,474
就業者数(男)	710	709	1,536	1,222	1,009	1,659
就業者数(女)	1,030	512	990	2,755	1,934	2,815
	医療、福祉	複合サービス事業	サービス業（他に分類されないもの）	公務（他に分類されるものを除く）	分類不能の産業	
総数(男女計)	15,209	732	5,521	9,709	2,640	
就業者数(男)	3,280	381	3,563	8,158	1,440	
就業者数(女)	11,929	351	1,958	1,551	1,200	

資料：総務省『国勢調査』

(4) 将来人口の推計

現在作成中

図 1-12 将来人口推計

現在作成中

図 1-13 将来推計（年齢3区分別）

現在作成中

表 1-9 将来推計（年齢 3 区分別）

現在作成中